

## 「いすみ鉄道再生会議意見交換会」概要

1 日時 平成19年4月27日(金) 13:30~16:00  
場所 いすみ市大原文化センター

### 2 意見発表者 11名

- (1) 沿線関係団体 5名  
(いすみ市大原観光協会、いすみ市老人クラブ連合会、大多喜町老人クラブ連合会、夷隅郡市商工会連絡協議会、県立大多喜高等学校)
- (2) 沿線住民・利用者 6名(公募による)  
(いすみ市在住 5名、大多喜町在住 1名)

### 3 意見発表者の発言要旨

#### (1) 沿線関係団体代表者

- ・自治体が当初から観光路線として生きて行くという対策を立てていれば、今ほどの赤字にはならなかったのではないかと。
- ・存続するのであれば、鉄道会社の本格的な経営改善の取り組みが必要。今のままのやり方で続けるのであれば廃止して、バスへの転換等を考えるべき。
- ・民間会社でやっていればこのような状況にはならなかったのではないかと。
- ・経営に対する責任がなければやめるしかない。
- ・通学、通勤、通院の公共交通機関としての存続を希望。
- ・大多喜町は住民たちが旧市街地の活性化の取り組みを始めている。鉄道を使って訪れる人も増えてきた。鉄道がなくなればこのようなやる気がなくなる恐れがある。
- ・存続のためには地域住民のマイレール意識の高揚も必要。そのためには、住民による応分の費用負担が必要。
- ・鉄道を存続させることが夷隅地域の利益になるのではないかと。
- ・車社会、人口減少の社会で誰がやっても赤字。しかし、学生が利用するので廃止は困難。
- ・DMVを導入した場合の試算をして、それでもだめならバスに転換したほうがよいのではないかと。
- ・大多喜高校の半数弱の生徒が鉄道を利用。(711名中333名が利用。利用率47%)
- ・バスの代替では300名を超える生徒に対応するのは無理。土日も部活動で大勢の生徒が利用。いすみ鉄道の存廃が、大多喜高校の命脈を握っている。

#### (2) 沿線住民・利用者

- ・沿線には普通の自然がある。「観光」というよりは、この自然を「レクリエーション」の売りにできないかと。
- ・点在する観光施設を車ではなく自転車や歩くこと(ハイキング)でつなげていくことが特徴のある地域づくりにつながるのではないかと。
- ・経済性だけを存廃の基準として考えるのはどうか。鉄道が持つ役割を時間をかけて考えるべきである。
- ・鉄道にキャラクター性を持たせ(イベント列車等)、集客効果をあげるのが重要。
- ・夷隅郡市は地域の発展のために鉄道に予算を集中して投入すべき。
- ・ハイキングコースの設定、都会の学校等との連携、駅内に農産物の販売所の設置。インターネットの活用、不動産会社と連携し沿線開発、公的機関・施設の誘致、上下分離 等

- ・ 沿線の菜の花から採油した食用菜種油の廃油をいすみ鉄道の燃料として利用し経費節約をする。
- ・ 鉄道だけでなく地域の再生、発展のためには夷隅地域の合併が不可欠。
- ・ 市の道路以外の交通手段として総合計画に取り込むべき。
- ・ 小湊鉄道との相互乗り入れ。
- ・ 基金だけをあてにした経営はやめるべき。
- ・ 大多喜の大水害のとき、鉄道がとまり代替バスが走ったが大変だった。通学手段として鉄道に変わる手段は他にないと痛感した。
- ・ バス転換により不安定な運行時間等から利用者が減りバス廃止となった例は少ない。アンケート結果を見るといすみ鉄道の場合もそうなるのではないか。
- ・ 321億円の価値がある鉄道（新設の場合）、廃止により54億円かかるとも言われる鉄道を廃止していいのか。みんなで守っていこうという機運を盛り上げていかなくてはいけない。

### (3) 傍聴者

- ・ 夷隅地域の将来を考えた場合、海岸線を重視するのならいすみ鉄道を廃止しても仕方がないと思うが、山側をあきらめたくない場合は、学校と病院を維持する必要あり。これがなくなれば過疎が進む。
- ・ 大原・大多喜間は現状維持、大多喜・上総中野間はバスに代替。それがだめならスクールトレインとして朝夕の運行だけ死守する。

## 4 意見交換

### ○今城委員

- ・ 存続の場合、まず利用してもらうことが基本。存続が決定してからも引き続き努力は必要。利用しなくても存在価値があると強調するのなら、費用負担をするということになる。
- ・ いろいろなアイデアが出たが、それに対していろいろなハードルがある。地元が必要だという考えになれば、乗り越える手段が出てくるだろう。
- ・ 地元が必要だということであればそういう手段や工夫もできるだろうが、いらぬということであればそういう判断をしないとイケない。今の段階でどちらかにはっきり決まったということではないと理解している。

### ○大多喜町長

- ・ 取り入れられるものは取り入れて何とか存続したいと考えている。

### ○勝浦市長

- ・ 大変な問題で軽々に取り扱うものではないと考えている。皆さんの意見を大切にしていって、今後最終報告に向けて努力していきたいと思っている。

### ○いすみ市長

- ・ 会社経営なので、マイナス面がある。プラス面は、皆がどう努力して鉄道を盛り上げていくかということ。そういうことを踏まえて皆で意見交換しながらいすみ鉄道を考えていきたいと思っている。

### ○御宿町長

- ・ 再生会議に委員としては、今後の会議のあり方、考え方について、十分皆様方の意見を尊重してこれから会議の進め方を考えていきたい。